

## 「Grazie! 10 25° anniversario!」



初勝利&シリーズチャンピオン! #79



最後惜しかったがお見事 #2



初参加で表彰台 #123



表彰台には届かず4位 #124

10周年の締めくくりを迎えた2017GT 耐久東海シリーズ。すべてのクラスで今日チャンピオンが来まる、文字通りの決戦の日、ドラマの最後にどんな結末が待っているのか…なおこのドラマにフィクションはない。

### 「EN」クラス（車両区分なしの自己申告制：アンダータイム規定あり）

今回のENクラスは過去最大級の4台参加、なのでレポートも独立しました。もう一度ENクラスのポイントをおさらい、車両区分はなく、1,2,3C、OPなど各クラスの規定に沿ったマシンであることが必要。その上で、その車両クラスの1秒もしくは2秒よりも速かった場合はその周回数をカウントしないというアンダータイムルールが設けられている。

基本的にはビギナーや、久しぶりのモータースポーツ参加者を想定している。今回は大学生のチームが3チーム、初めてレースに参加するチームが1チームととってもフレッシュな顔ぶれ。思いっきり走っちゃってOKです!!

#### ■予選

序盤から快調なのは#2「ASMC フィット RS」、06秒台、さらには05秒台を記録して周回数を伸ばしてゆく。社内レク活動でレース(的なもの)への参加は初めてとのことだが、さすがは技術系会社、マシンもノーマルに近いとのことだが、このタイプのフィットかなりポテンシャルは高そうだ。

2位走行#79「NAC ヴィッツ」、2回めとあってすっかり慣れたもの、自分たちのペースをきっちり刻む。3位#123「NATC マーチ」、リズムを掴んできたか、まずまず好調。

予選好調だったチームのもう1台#124「日産愛知自動車大学校シルビア」は、序盤早々にスピン、リヤバンパーが外れかけたためピットで緊急手当。出遅れた格好にはなったが持ち前の速さを活かして再浮上を狙う。

#### ■中盤

折り返しの中盤戦、#2「ASMC フィット RS」は70Lapで首位、全体でもトップ10圏内と大健闘。マフラーすらもノーマルのよう、初心者マーク(と何故か高齢者マークも!?)貼ってあるが…いやいや素晴らしい走り。

2位#79「NAC ヴィッツ」が60Lap、少し差がついたか。だがまだ中盤戦。

3位#123「NATC マーチ」59Lap、2位争いは白熱。

4位#124「日産愛知自動車大学校シルビア」、55Lap。だいぶ盛り返したか、チームメイトとの表彰台争いに持ち込みたい。

#### ■終盤

残り一時間、相変わらずトップは#2「ASMC フィット RS」が首位、少しペースは落ちたがレースをコントロール。

2位#79「NAC ヴィッツ」が2位争いから抜け出しての単独走行。#123「NATC マーチ」が単独3位。

4位#124「日産愛知自動車大学校シルビア」、ここから追いかけていたいチームメイトとの差は4~5周といったところ。

# Race Report



## ■最終結果

このまま行けば優勝かと思われた#2「ASMC フィット RS」にアクシデント！ 立体交差下でスピン、コースアウトでクラッシュパッドに接触。SC カーランとなる。

#2 はフロントバンパー周辺の応急処置で、戦列に復帰できたが、これまでのアドバンテージはなくなり、最終的には 25 秒差の 2 位でチェッカー。

代わって勝利を手にしたのは#79「NAC ヴィッツ」、序盤からしびといレースを続けてきたように見えるが、06 秒台に入れる速さもあり、見事初優勝！！シリーズチャンピオンも決定。3 位はチームメイトとの争いを制した#123「NATC マーチ」が表彰台を獲得。4 位惜しかった#124「日産愛知自動車大学校シルビア」、あと1周まで追いつがったが、ポディウムには届かず。



## ■総評

EN クラスらしいフレッシュな顔ぶれで、思いっきり楽しんだ最終戦。中にはハッスルしすぎたチームもあったが、大きなトラブルにはならずレース復帰できたのは幸い。

特筆すべきは新型（現行）フィットの走り。1+2C クラスで同じ GK5 型フィットを走らせる#67「CRAZYFORCE」チームの関係者も、このフィットは速いと。エンジンはタイプ R があった世代とはいかないが 1500 としてはパワーも充分出ており、これからもっと速くなると太鼓判。ZC 型エンジンを彷彿とさせるといえば、世代の方にはわかりやすいか。具体的にはノーマルでもストレートが伸びるとのこと。



そのフィットを駆って 2 位は技術会社の社外レク、実はこのシリーズ、あえて名前は言えないけれど、軽耐久も含めてそういうチームが多いんです。

あのクルマのエンジンや、あのメーカーのボデーやシャシを開発しているエンジニアたちや、販売の第一線スタッフ、そしてそれらを目指す若者たちが楽しんで、モータースポーツやクルマの愉しみを自らが知る。そしてそれが素晴らしい製品となって世に送り出される。そんな場の一員で居れたことに感謝いたします。そしてこれからの GT 耐久シリーズをさらに発展させていきたいと思います。



EN クラス



シリーズ表彰





ほぼ完璧な勝利!! #111



逆転ならず年間も2位 #110



初ボディウム #81



今年は4位が多かった #70



今回は5位 NA #4



グリーンが鮮やかなニューマシン #39



リッターヴィッツで奮闘 7位 #46

## 「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1850ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス）

2017年の最終戦に集まった1+2Cクラスはなんと史上最多の14台!!

ここに来てのこの盛り上がりは、関係者として感謝いたします。

さてその1+2Cクラスのチャンピオン争いは、ここまで2勝を挙げている#111「T-FACTORY」がチームのGD3フィットがランキング首位、それを5P差で強豪#110「アライメント浜松」チームのスイスポ(HT81S)が追いかける展開で、こちらは1勝。チャンピオン争いはこの2チームの一騎打ち。この最終戦に勝ったほうが王者という分かりやすい展開。

一方、タイトル争い以外でも#39「CLN」チームが前戦までのリッターヴィッツに換えNCP91の1500をデビューさせた。実はこのマシン来季以降を睨んでのCLNチームの先行開発車とも言える車両だ。注目ポイントの多いレース。

台数では史上最大、接戦度では今季最大のレースが今始まる。

### ■予選

さあ過去最大級の参加台数、順に予選から行きますよ。#111「T-Fac リキモリ剛式R Fit」1'01.439、出たー!! 今季初の01秒台、それも前半。おそらく1+2クラスではシリーズ通しても初と思われ、歴代でもトップクラスのタイム。オープンクラスに匹敵する驚異のタイムで文句ナシPP獲得。

フロントローのもう1台は#110「DXL アライメント浜松スイフト」1'02.772、1秒3ほど空けられたが、コレだってクラスとしてはレコードタイム更新、それだけ#111剛式号が速い!

3番手は#81「てんぱちロードスター」1'04.498、今回ゼッケン#18がK耐久で使ってますからね。4番手#39「COCKPIT&CLN ヴィッツ」1'04.592、1+2クラスへの本格参戦を睨んでのマシンチェンジか。

5番手#70「ウエリース シビックGT」1'05.668、今季ここまでの最高位は4位。

6番手#40「MID・AXIS・YES マーチ」1'05.887、第3戦に続いての出場。7番手#4「ミュルサンヌ ロードスター」1'06.098、8番手#870「MSCJ 東海マーチ」1'06.323。まだまだ行くよ、9番手#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」1'07.257、外国人ドライバーも参加。

10番手#50「MSCJ 奈良ロードスター」1'07.694、11番手#222「A.R.C.Kii Fit」1'08.595、もともとは#111の剛式号の初号機用に作ったマシンを手直した車両。

12番手レクサス風グリルがポイント#911「ブラウニープリントアーツ ヴィッツ」1'09.709、13番手#15「明光寺赤ヴィッツ1号機」1'09.720、最下位#67「CRAZY FORCES VZX Fit」1'20.271、本調子ではないようだが、無事決勝へ。

本調子ではない#67以外はすべて1分10秒を切った、数年前ま10秒切りがこのクラスの目安だったのだが、いやいやホント速くなりましたね～

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■序盤

まずはスタートから飛び出した#111「T-Fac リキモリ剛式 R Fit」、スイスイ周回数を伸ばす。ピットもきっちりとこなし序盤はほぼ完璧なレース。

追いかける#110「DXL アライメント浜松スィフト」だが、速さでは一歩及ばず(とは言え 03 秒台フラット近くまでは記録しているだが)、チャンスを伺う戦略。よって 2 位以下は大混戦、#81「てんぱちロードスター」、#39「COCKPIT&CLN ヴィッツ」といった予選でも上位どころがつけるが、#70「ウエリース シビック GT」、予選では今ひとつだった#67「CRAZY FORCES VZX Fit」などの新旧ホンダ車も虎視眈々と狙う。

その一方で無難なスタート思いきや、EN クラスのマシンのスピンに巻き込まれる形となった#911「ブラウニープリントアーツ ヴィッツ」、危うくダートに難を逃れ、スタックもせずに戦列に復帰できたのは幸運。順位は下げたがほっと胸をなでおろす。

一方、序盤から苦しい展開となったのは#222「A.R.C.Kii Fit」、スタート後 20 分少々で、ターン 1 でコースアウト。SC ランを招いてしまう。

トップは相変わらず 02 秒から 03 秒台と激速、2 位以下はどこにでもチャンスが有る状態、はたしてこんなで持つの～！？と思いつつ中盤へ。

## ■中盤

折り返しでもトップをがっちり守るのは#111「T-Fac リキモリ剛式 R Fit」、2 位以下に 1 ピット分のマージンを稼ぎ独走態勢。周回数も 76Lap とタイムボード全体のトップに名を刻む。

混戦の 2 位争いから抜けだそうとしているのは、#39「COCKPIT&CLN ヴィッツ」のようだ。03 秒台を記録し、速さも持っており、トップへの挑戦といきたいところ、その差は 5Lap ほど。

3 位#4「ミュルサンヌ ロードスター」70Lap、以下#40「MID・AXIS・YES マーチ」70Lap、#81「てんぱちロードスター」なども同一周回でしのぎを削る。

中盤で異変が起きたのは#67「CRAZY FORCES VZX Fit」、予選こそ今ひとつだったが、まずまずの速さを見せており熟成も進んできているように見えた矢先、ブレーキの不調を感じ始める。

第 2 集団は#110「DXL アライメント浜松スィフト」を先頭に#70「ウエリース シビック GT」など実力チーム、さらに#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、#870「MSCJ 東海マーチ」、#15「明光寺赤ヴィッツ 1 号機」が入る。

さらにそれを追いかけて#50「MSCJ 奈良ロードスター」、#911「ブラウニープリントアーツ ヴィッツ」と続く。

とここで#222「A.R.C.Kii Fit」にまたも苦難が、立体交差付近で、クラッシュ。右フロントを痛めてしまう。それでも力走を続ける#222、完走を目指しての戦いだ。

## ■終盤

ピットの間に、一旦は#39「COCKPIT&CLN ヴィッツ」が立つものの、レースは#111「T-Fac リキモリ剛式 R Fit」がコントロール。#4、#81 のロードスター勢も好調で上位キープ。2 位争いがますます混戦に。

あっと、やはり#67「CRAZY FORCES VZX Fit」に異変、左フロントブレーキからオイル漏れ、緊急ピットインで、大事には至らず。異変を感じマシンをピットに持ってきたドライバーのお手柄、リタイヤとはなったが、コースで”何かを起こさない”というのもドライバーの役目。

あとはタイトル争い、#110「DXL アライメント浜松スィフト」は勝利が絶対条件。この時点では 4～5 位を走行中、これでは逆転タイトルへは届かない。さあどおする、最後のスパートをかける。



マーチ最上位 #870



速くなってきたぞ #50



中段也大接戦でここまでトップ 10 #40



ポイントには届かず 11 位 #15



ヴィッツも増えてきた #911

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■最終結果

歓喜のゴール、#111「T-Facリキモリ剛式 R Fit」ほぼ完璧な勝利でチャンピオン決定！！2位は追いつけたが4Lap 差が開いた#110「DXL アライメント浜松スィフト」、逆転ならず。3位#81「てんぱちロードスター」予選と同じ3位で表彰台。4位#70「ウエリース シビックGT」今季3回目の4位。5位は#4「ミュルサンヌ ロードスター」、6位は、ペナルティなどもあって最後伸び悩んだ39「COCKPIT&CLN ヴィッツ」、だが手応へは掴んだか。

7位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、8位#870「MSCJ 東海マーチ」、9位#50「MSCJ 奈良ロードスター」、10位#40「MID・AXIS・YES マーチ」。ここまでがトップ10ポイント獲得。

以下11位#15「明光寺赤ヴィッツ1号機」、12位#911「ブラウニープリントアーツヴィッツ」、13位#222「A.R.C.Kii Fit」でここまでが完走。#67「CRAZY FORCES VZX Fit」はリタイヤという結果。

## ■総評

GT 耐久では最も進化したのはこのクラス。本当に速くなりました。入門編的な位置づけで始まったこのクラスも。ベース車の移り変わりによって、本格的なレースができるマシンが増えてきたとも言える。具体的にはシビックがフィットに、レイトレがヴィッツに、そしてスィフト、さらにはFR 特例でのロードスターと。この傾向は今後さらに進むと思われる。中でもフィットの速さは特筆、初期型ならサーキット専用セッティングでトップを狙え、2ND以降特に3RDモデルはノーマルでもかなりのポテンシャルを持つ。まだ中古は少ないが、そんな選択肢もありだ。



満身創痍 #222



いざ決戦！！



教授も残念 #67



1+2 クラス



年間表彰 1+2 クラス



会社の仲間と ENJOY！！



年間&シーズン 3 勝目



逆転で王座奪還！ #62



連続 2 位 #77



久々の出場できっちり 3 位！ #84



初参加は 4 位 #21



きっちり完走 #405

## 「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクロズドクラス）+「OP」クラス

第 2 戦、第 3 戦と連勝し（これはチーム初でインポートカーとしてもシリーズ初）2010 年以来のチャンピオンに王手をかけた 3C の#106「D&M スパイクオート 106」。対するは 5P のビハインドながらここまでしぶといレースを続ける#62「WN ☆ワコズ ☆CLNシビック」(3C)の一騎打ち。

今季初参加#21「ZEST ハニーロードスター」(OP)、お久しぶりの#84「浜松日産 With メビウスマーチ」(OP)なども加わった全 6 台。

### ■予選

予選トップは#62「WN ☆ワコズ ☆CLNシビック」(3C)が 1' 02.996、今回も唯一の 02 秒台に入れてくる。逆転にかけるぜ！

2 位は#106「D&M スパイクオート 106」(3C)1' 03.612、MAX40 キロのウエイトを積んで精一杯のタイムアタック、第 3 戦の予選タイムを更新！！#62 の前でゴールすればもちろん決まりだ。

予選 3 位は#77「ウエリース ロードスター GT」(OP)1' 04.235、第 3 戦で自己最高位の 2 位 Get で上り調子、さらにタイムも上がってきた。

予選 4 位#84「浜松日産 With メビウスマーチ」(OP)1' 04.269、久々の出場ながら相変わらずオーバーフェンダーはカッコイイ！

それに対するのは予選 5 位の#405「インフィニティー FX」(OP)1' 04.794、ザ・昭和対決（ホントは平成対決です、ハイ）

予選 6 位今季初参加#21「ZEST ハニーロードスター」(OP)1' 08.058、プログラムでは 1+2 となっていたましたが、決勝は OP クラス。

### ■序盤

スタートからわずか 15 分弱、#106「D&M スパイクオート 106」のミッションに異常。緊急ピットインでチェックした後再スタート、しかしやはり無理だった。コース上でストップ、ミッションが音を上げてしまった。7 年ぶりの王座戴冠の夢ならず…

これで#62「WN ☆ワコズ ☆CLNシビック」が俄然有利、何事もなければ逆転チャンプ。

2 位は#77「ウエリース ロードスター GT」、3 位#84「浜松日産 With メビウスマーチ」が 2 位争い。

4 位#21「ZEST ハニーロードスター」は単独走行。5 位#405「インフィニティー FX」は今回ペースが上がらない、挽回できるか。

### ■中盤

中盤では#77「ウエリース ロードスター GT」がトップ走行、初優勝なるか。ここでの 2 位は余裕の現れか#62「WN ☆ワコズ ☆CLNシビック」。

3 位には#21「ZEST ハニーロードスター」が上がり、代わって#84「浜松日産 With メビウスマーチ」が 4 位。表彰だ争いも面白いぞ。

#405「インフィニティー FX」はなんとかペースを挽回してきた。

### ■終盤

波乱のゴールも見えてきた、ピットストップ時に譲った首位のポジションを奪い返しあとはゴールまで一直線の#62「WN ☆ワコズ ☆CLNシビック」。

さすがに 6Lap 離されては厳しいか、それでも集中力を切らさず走る#77「ウエリース ロードスター GT」が 2 位。

3 位争いは緊迫、見た目は#21「ZEST ハニーロードスター」が前を行くが、ピットのには#84「浜松日産 With メビウスマーチ」が先行しているか？最終ステイントはどうなる。

5 位#405「インフィニティー FX」も 100Lap に乗せてきており、完走はクリアしそう。

# Race Report



## ■最終結果

最後まで危なでなく走った#62「WN☆ワコズ☆CLNシビック」が優勝、こちらは2013年以来の王座奪還に成功。そして#62号車のラストランとなった。

2位は2戦連続の2位、#77「ウエリース ロードスター GT」、初優勝はお預けとなった。白熱の3位争いを制したのは#84「浜松日産 With メビウスマーチ」、久々の出場ながらさすがの上手さを発揮して表彰台へ。

惜しかった#21「ZEST ハニーロードスター」が4位、5位 405「インフィニティ FX」もきっちり完走。

惜しかったといえば#106「D&M スパイクオート 106」、全力は尽くしたがマシンが...



掴みかけた栄冠が... #106

## ■総評

どちらが勝っても久しぶりのタイトルという決戦だったが、結果はご覧の通り。#106は不運だったが、#62も来季からは活躍の場を1+2に移すべく#39号車でのセッティングを進めているという。その意味では絶対に負けられないドラマがあったのだ。シリーズ初期からともに戦う両チーム、最後は少し残念だったが、ともに見事なシーズンの戦いっぷりだった。10年ありがとう、そして未来へ...



3C&OP クラス



シリーズ表彰 3C&OP クラス



# Race Report

GT-CAR PRODUCE

